

令和8年度
授業シラバス
【1年次】

志高く
未来を
創る

題字/松岡 篤志（元西高教諭）

北海道函館西高等学校

令和 8 年度 教育課程表

北海道函館西高等学校

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	必履		必履		必履		必履		必履			履		必履		必履		必履		必履		選択必履		必履			必履		必履		LHR
1 年	1 現代の国語		2 言語文化		3 歴史総合		4 地理総合		5 数学Ⅰ			6 数学A		7 物理基礎		8 生物基礎		9 体育		10 保健		芸術Ⅰ (11音楽Ⅰ) (12書道Ⅰ) (13美術Ⅰ)		コミュニケーションⅠ 14英語			15 情報Ⅰ		探究基礎		LHR

	履	履	必履	履	履	必履	必履	必履	必履	履	選21	履	必履	LHR
2 年	1 論理 国語	2 古典 探究	3 公 共	4 数学 Ⅱ	5 数学 B	6 化学 基礎	7 家庭 基礎	8 体 育	9 保 健	10 英語 コミュ ニケー ション Ⅱ	11日本史探究 12世界史探究 13地理探究 14物理 15生物 16美術Ⅱ 17生涯体育※ 18音楽Ⅱ※ 19書道Ⅱ※ ・グローバル探究	20 論理・表現 Ⅰ	探究ナビ Ⅰ	L H R

※ 2・3 年共修

		必履	選31	選32	選33	選34	選35	選36	必履	必履	選37	選38	必履	LHR	
3 年	文系	1 論理 国語	2日本史探究 3世界史探究 4地理探究 5物理 6生物 7公民応用 8国語教養	9文学国語	16英語研究		22物理基礎研究 23生物基礎研究 24古典発展 25英語発展 26実践国語 27理科教養	28化学基礎研究 29地学基礎	36倫理 37政治経済	41 体育	コミュニケーション 42英語 Ⅲ	43生涯体育※ 44音楽Ⅱ※ 45書道Ⅱ※ 46数学研究A 47情報研究 48英語探究 49政治経済 50倫理応用 51実践化学 52デザイン	53小論文発展 54数学研究B 55英語研究 56数学発展 57国語に親しむ 58音楽Ⅲ 59書道Ⅲ 60色彩に親しむ	探究ナビⅡ	LHR
	17数学C				30日本史探究										
	10数学Ⅲ				31化学 32物理 33生物										
	理系			11数学研究A	12数学研究B	18数学C		34数学応用 35英語教養							
	公務員 看護 専門 就職等			13公民応用 14実践英語 15国語教養	19地歴応用 20実践数学 21数学教養		38漢表に親しむ 39書に親しむ 40情報Ⅱ								

※ 2・3 年共修

北海道函館西高等学校 現代の国語 年間指導計画(2単位)				A 26 時間			B 34 時間			C 10 時間			計 70 時間						
科目の目標				単 元 名															
				4月 い	5月 め	5月・6月 聞	6・7月 発	7月 文	8・9月 わ	9・10月 資	10月 他	11月 情	11・12月 他	12・1月 主	1月 意	2月 考	3月 自		
(1) 知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。				言 業 に は 、 認 識 や 思 考 を 支 え る 働 き が あ る こ と を 理 解 し 、 そ こ か ら 「 問 き 」 の 設 定 を 考 え る	対 比 の 構 造 を 要 点 を つ か ん で ま と め る	聞 き 取 っ た 内 容 を ま と め る	発 想 を 広 げ 、 自 分 の 意 見 を 書 く	文 章 の 論 理 を 捉 え て 、 伝 え る	わ き 取 っ た 情 報 を 整 理 し 、 魅 力 が 伝 わ る よ う に 相 手 に 伝 え る	資 料 を 駆 使 す る	他 者 と 交 流 す る	情 報 を 比 較 す る	他 者 を 動 か し 、 他 者 と 協 働 す る	主 張 を 吟 味 す る	情 報 の 妥 当 性 や 信 頼 性 を 吟 味 し て 、 意 見 文 を 書 く	考 え を 発 信 す る	自 分 な り の 問 い を 、 他 者 に 伝 え る		
(2) 思考力、表現力、判断力等 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																			
(3) 学びに向かう力・人間性等 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。																			
学年	第1年次	担当	大地 博																
使用教科書		『現代の国語』大修館																	
指導領域		A 話すこと・聞くこと		6					4	4				4	4			4	
授業時数の計		26 時間																	
指導領域		B 書くこと			4	4	8				4	8					6		
授業時数の計		34 時間																	
指導領域		C 読むこと						4								6			
授業時数の計		10 時間																	
指 導 事 項																			
知識及び技能	(1)	ア	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。	○			○												
		イ	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。			○					○								
		ウ	常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	○				○								○			
		エ	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	○								○						○	
		オ	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。		○											○			
	(2)	カ	比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。				○		○								○		
		ア	主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。					○				○				○			
		イ	個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。		○								○						
		ウ	推論の仕方を理解し使うこと。				○							○				○	
		エ	情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。			○					○		○						
思考力、判断力、表現力等	(3)	オ	引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。					○		○				○					
		ア	実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。						○			○					○		
		ア	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。						○										
		イ	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。											○					
		ウ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。			○					○								
	話すこと・聞くこと	エ	論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。												○				
		オ	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。															○	
		ア	目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。				○												
		イ	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。	○															
		ウ	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。									○	○						
書くこと	エ	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。			○											○			
	読むこと	ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。					○											
		イ	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。													○			
教 材 名																			
				に・言葉を学ぶ『言葉のなかに生まれる』長田弘	主張をとらえる『西』山崎正和	的確に伝える『水の東』	意見を示す	論理を捉える『内山節』	『自然と人間の関係をとおして考える』	魅力的に伝える	資料を駆使する『国』の限界	「安くておいしい」	他者と交流する	香山リカ『「空気を読む」から「分人」へ』平野啓一郎	他者を動かす	國分功一郎『「贅沢を取り戻す」』	情報を吟味する	考えを深める	考えを深める

北海道函館西高等学校 言語文化 年間指導計画(2単位)				A 7 時間			B 63 時間			C 単元名			計 70 時間											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	10月	11月	12月	12月	1月	2月	3月							
科目の目標				古文入門・活用する自立語（自立語）	漢文入門・漢文基礎	近代の小説	古文随筆	古文随筆	故事成語	近代の詩	現代の詩	古文物語・活用する付属語（助動詞）	短歌・俳句	短歌・俳句	漢詩	漢詩	翻訳小説							
(1) 知識及び技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。																								
(2) 思考力、表現力、判断力等 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																								
(3) 学びに向かう力 人間性等 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。																								
学年 第1年次 担当 佐藤和範																								
使用教科書 「言語文化」大修館書店																								
指導領域 A 書くこと																								
授業時数の計 7 時間																								
指導領域 B 読むこと																								
授業時数の計 古典 43 時間 近代以降の文章 20 時間																								
指導事項																								
知識及び技能	(1)	A	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。	○	○					○	○	○	○	○										
		B	常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。			○											○							
		C	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	○	○				○			○				○								
		D	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。			○	○	○				○					○							
		E	本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。									○	○	○										
	(2)	F	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。												○	○	○							
		G	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。	○	○		○	○				○			○									
		H	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。	○	○							○		○			○							
		I	時間の経過や地域・文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。			○						○			○									
		J	言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。			○		○	○						○	○	○							
思考力・表現力・判断力等	A 書くこと	K	我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。			○	○			○	○	○	○	○		○								
		L	自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。			○							○											
	B 読むこと	M	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。								○			○										
		N	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。	○		○	○	○						○		○	○							
		O	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。	○		○	○	○					○	○			○							
	P	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。							○	○	○		○	○		○								
	Q	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。			○					○	○		○	○		○								
	R	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。		○						○	○		○	○		○								
				教材名																				
				「児のそら寝」	「成句・格言」	「羅生門」	「枕草子」	「徒然草」	「漁夫之利」	「朝三暮四」	「推敲」	「島崎藤村」	「萩原朔太郎」	「中原中也」	「石垣りん」	「吉野弘」	「伊勢物語」	「活用する付属語」	近現代の俳句・作句	近現代の短歌・作歌	唐代の漢詩	日本の漢詩	「待ち伏せ」	ティム・オブライエン
				「検非違使忠明」		芥川龍之介																		
				「絵仏師良秀」																				

1 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
地歴		歴史総合	2	学級単位		細木雅伸
教科書		歴史総合 近代から現代へ（山川出版社）				
補助教材		なし				
目標	科目	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	歴史上の事柄を、地域に分けて、時系列に理解できるようにする。			歴史上の事柄を、関連づけて説明できるようになる。		関心を持った事柄に対して、自分で調べたり、問を立てたりすることができる。
評価の方法	・小テスト ・定期考査			・定期考査 ・ワークシート ・調べ学習、スライド作成、発表		・ワークシート ・調べ学習、スライド作成、発表

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第1章結びつく世界 第2章近代ヨーロッパ・アメリカ世界	・アジア諸地域の繁栄と日本 ・ヨーロッパ人の海外進出 ・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命 ・19世紀のヨーロッパ ・中国の開港と日本の開国	○	○	○	・16世紀にはアジア各地で大帝国が繁栄し、日本とも貿易等でつながりがあったことを理解できる。 ・大航海時代におけるヨーロッパ各国の進出を理解できる。 ・産業革命、市民革命について、背景、経過、結果、影響について理解できる。 ・日本の幕末の状況について、対外的な関連性を含めて理解できる。 ・日本の幕末の状況について、説明できる。 ・産業革命期に発生した、様々な技術的進歩を説明できる。
6-8	12	第3章明治維新と日本の立憲体制 第4章帝国主義の展開とアジア	・明治維新 ・自由民権運動 ・条約改正と立憲体制 ・帝国主義 ・日露戦争	○	○	○	・明治維新について、背景、経過、結果、影響について理解できる。 ・大日本帝国憲法の成立過程を理解できる。 ・日清・日露戦争に至る過程を理解できる。 ・日清、日露戦争前後の時期に、資本主義経済の基礎が確立された過程を理解する。 ・「帝国主義」について理解できる。
前期期末考査							
9-11	22	第5章第1次世界大戦と大衆社会 第6章経済危機と第2次世界大戦 第7章戦後の国際秩序と日本の改革	・第一次世界大戦 ・アジアアフリカの民族運動 ・世界恐慌の発生 ・ファシズム ・日中戦争 ・第2次世界大戦と太平洋戦争 ・新たな国際秩序と冷戦の始まり ・占領下の日本 ・占領政策の転換と日本の独立	○	○	○	・第一次世界大戦に至る経緯、ヨーロッパ列強の2大勢力の対立、社会主義革命の影響、この大戦にアメリカや日本が如何に関わり影響を及ぼしたか考察を深める。 ・一次大戦後の「持てる国」と「持ざる国」との情勢と経過と対立に至る経過に考察する。 ・日本の満州事変から国際連盟の脱退に至る状況を理解できる。 ・日中戦争、第二次世界大戦、太平洋戦争それぞれの性格戦時下経済と国民生活について理解できる。
後期中間考査							
12-3	20	第8章冷戦と世界経済 第9章グローバル化する世界 第10章現代の課題	・米ソ両大国と平和共存 ・西ヨーロッパの経済復興 ・55年体制の成立 ・日本の高度経済成長 ・冷戦構造のゆらぎと終結 ・ソ連の崩壊と経済のグローバル化 ・国際社会の中の日本	○	○	○	・サンフランシスコ講和会議と日本の主権回復、日米安保の経緯について理解できる。 ・保守政権誕生と、外交政治経済を踏まえて理解できる。 ・特需景気と産業構造の高度化を理解できる。 ・冷戦終結後の国際構造の変化について理解できる。
後期期末考査							
合計	70						

1 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
地歴		地理総合	2	学級単位	藤田 省吾	
教科書		高等学校 新地理総合（帝国書院）、新詳高等地図（帝国書院）				
補助教材		高等学校 新地理総合ノート（帝国書院）				
目標	科目	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。		地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができる。		地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めることができる。	
評価の方法		・単元テスト ・定期考査 ・ワークブック ・ノート提出		・単元テスト ・定期考査 ・ワークブック ・ノート提出 ・プレゼンテーション		

年間計画

		◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	14	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 第2章 結び付きを深める現代世界	1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界 ・単元テスト ・ワークブック	◎	◎	○
6-7	13	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解	1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 ・単元テスト ・ワークブック	◎	◎	○
		前期期末考査				
8-11	25	第2章 地球的課題と国際協力	1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題 6節 都市・居住問題 ・単元末考査 ・ワークブック	○	○	◎
		後期中間考査				
12-3	18	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 第2章 生活圏の調査と地域の展望	1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え 1節 生活圏の調査と地域の展望 ・単元テスト ・ワークブック ・プレゼンテーション	○	○	◎
		後期期末考査				
合計	70					

1 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
数学		数学 I	3	2 クラス 3 展開	岡森 祥・工藤 舞・石橋 映子	
教科書		改訂版 数学 I Standard (東京書籍)				
補助教材		改訂版 StandardBuddyWIDEシリーズ 数学 I + A (東京書籍)				
目 標	科 目	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (知識及び技能) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (思考力、判断力、表現力等) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (学びに向かう力、人間性等) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度や創造性を養う。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。		目的に応じて適切に式変形する力、表・式・グラフを相互に関連付けて考察する力、適切に分析を行い問題を解決したり批判的に考察し判断する力がついている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身に付いている。	
評価の方法	単元テスト、定期考査に加えて、小テストの項目分を加えて 3 段階 A, B, C で評価する。なお、小テストは各単元の中で定期的に実施する。		単元テスト、定期考査に加えて、小テストの項目分を加えて 3 段階 A, B, C で評価する。なお、小テストは各単元の中で定期的に実施する。		ワークの提出状況、課題学習、長期休業中の課題や日常的な学習活動や授業中の取組および自己評価を加えて 3 段階 A, B, C で評価する。	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	数と式	・ 式の計算 ・ 実数 ・ 1 次不等式 [課題学習]	◎ ◎ ◎ ◎ ○	○ ○ ○ ○ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎	・ 多項式の加法、減法、乗法の基本的な計算ができる。 ・ 適切な形を選択して、展開や因数分解ができる。 ・ 数を拡張することに興味を持ち、意味を理解できる。その上で、根号を含む式、絶対値記号を含む基本的な式の計算ができる。 ・ 不等式の性質について理解し、1 次不等式を解くことができる。 ・ 興味を持って課題に取り組み、数学的思考を深めることができる。
		集合と論証	・ 命題と論証	○	◎	◎	・ 命題に関する基本的な概念を理解できる。
6-8	18	2 次関数	・ 関数とグラフ	◎ ◎	○ ○	◎ ◎	・ 2 次関数の値の変化や特徴について理解し、そのグラフを書くことができる。 ・ 2 次関数の最大値、最小値を求めることができる。 ・ 2 次関数の決定について理解し、問題を解くことができる。
		前期期末考査					
9-11	33	2 次関数	・ 2 次方程式と 2 次不等式 [課題学習]	◎ ○ ○ ○ ○	○ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎	・ 2 次方程式の解を求めることができる。 ・ 2 次方程式や 2 次不等式の解と 2 次関数のグラフとの関係性について理解できる。 ・ 2 次関数のグラフを用いて、2 次不等式を解くことができる。 ・ 興味を持って課題に取り組み、数学的思考を深めることができる。
		図形と計量	・ 鋭角の三角比 ・ 三角比の拡張	◎ ◎	○ ○	◎ ◎	・ 鋭角の三角比と相互関係について理解できる。 ・ 三角比を鈍角までの拡張し、鈍角の三角比を用いて鈍角の三角比の値を求めることができる。
		後期中間考査					
12-3	30	図形と計量	・ 三角形への応用 [課題学習]	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	・ 正弦定理や余弦定理を理解し、活用できる。 ・ 三角比や正弦定理、余弦定理などを用いて図形の計量に応用できる。 ・ 興味を持って課題に取り組み、数学的思考を深めることができる。
		データの分析	・ データの整理と分析 ・ データの相関 ・ 仮説検定の考え方 [課題学習]	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	・ 分散、標準偏差、散布図および相関係数に意味や使い方を理解できる。 ・ 目的に応じたデータの収集、分析を行い、データの傾向を把握して、事象の特徴を説明できる。 ・ 興味を持って課題に取り組み、数学的思考を深めることができる。
		後期期末考査					
合計	105						

1 年次		必修			
教科		科目	単位数	学級編成	担当者
数学		数学A	2	2 クラス 3 展開	岡森 祥・石橋 映子・工藤 舞・船水 裕貢
教科書		改訂版 数学A Standard（東京書籍）			
補助教材		改定版 StandardBuddyWIDEシリーズ 数学 I + A（東京書籍）			
目 標	科 目	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （知識及び技能）図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 （思考力、判断力、表現力等）図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。 （学びに向かう力、人間性等）数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を養う。			
		自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力
	資質・能力	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。		図形の性質を見い出し論理的に考察する力、確率の性質に基づき事象の起こりやすさを判断する力、事象を数理的に考察する力がついている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身についている。
評価の方法		単元テスト、定期考査に加えて、小テストの項目分を加えて 3 段階A, B, C で評価する。なお、小テストは各単元の中で定期的に実施する。	単元テスト、定期考査に加えて、小テストの項目分を加えて 3 段階A, B, C で評価する。なお、小テストは各単元の中で定期的に実施する。		ワークの提出状況、課題学習、長期休業中の課題や日常的な学習活動や授業中の取組および自己評価を加えて 3 段階A, B, C で評価する。

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	場合の数と確率	・ 場合の数	◎ ◎ ◎ ◎ ○	○ ○ ○ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎	・ 集合の表し方、意味や法則を理科できる。 ・ 図表示などを用いて、有限集合の要素の個数を求めることができる。 ・ 樹形図や和・積の法則を用いて場合の数を求めることができる。 ・ 順列の意味を理解し、いろいろな順列の総数を求めることができる。 ・ 組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。また、組合せの考えを用いていろいろな順列の総数を求めることができる。
6-8	12	場合の数と確率	・ 確率とその基本性質 ・ いろいろな確率 [課題学習]	◎ ○ ○ ○ ○ ○	○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	・ 確率の意味や基本的な法則について理解し、それらを活用して確率を求めることができる。 ・ いろいろな事象とその確率について理解し、これらを用いて確率を求めることができる。 ・ 独立な試行について理解し、これを用いて確率を求めることができる。 ・ 反復試行について理解し、これを用いて確率を求めることができる。 ・ 条件付き確率について理解し、これを用いて確率を求めることができる。 ・ 期待値について理解し、期待値を求めることができる。 ・ 興味を持って課題に取り組み、数学的思考を深めることができる。
(前期期末考査)							
9-11	22	図形の性質	・ 三角形の性質 ・ 円の性質 [課題学習]	◎ ◎ ○ ○ ◎ ◎ ◎	○ ○ ◎ ◎ ○ ○ ○	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	・ 線分の内分と外分、三角形の角の二等分線と比について理解し、線分の長さを求めることができる。 ・ 三角形の重心・外心・内心とその証明について理解する。また、外接円、内接円との関係を理解する。 ・ チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、いろいろな辺の長さや比を求めることができる。 ・ 円周角の定理とその逆を用いて角の大きさを求めることや4点が同一円周上にあるかどうかを判断することができる。 ・ 円に内接する四角形の性質と四角形が円に内接する条件について理解し、角の大きさを求めたり四角形が円に内接するかどうか判断することができる。 ・ 円の接線の長さについて理解し、線分の長さを求めることができる。 ・ 接線と弦のつくる角について理解し、角の大きさを求めることができる。 ・ 方べきの定理について理解し、線分の長さを求めることができる。
(後期中間考査)							
12-3	20	図形の性質	・ 円の性質 ・ 空間図形 [課題学習]	◎ ○ ◎ ○ ○ ○	○ ◎ ○ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	・ 2つの円の位置関係について理解し、線分の長さを求めることができる。 ・ 基本的な作図と図形の性質を用いて様々な作図をすることができる。 ・ 空間における2直線・2平面の位置関係やなす角、平面の決定条件などについて理解する。 ・ 空間における直線と平面の位置関係が垂直である場合について考察することができる。 ・ 多面体や正多面体について理解し、正多面体の頂点、辺、面の数について考察することができる。 ・ 興味を持って課題に取り組み、数学的思考を深めることができる。
(後期期末考査)							
合計	70						

1 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
理科		物理基礎	2	学級単位		金澤 恵 ・ 高橋 賢司
教科書		改訂 高等学校 物理基礎（第一学習社）				
補助教材		改訂 ネオパルノート物理基礎（第一学習社）				
目 標	科 目	物理の基本的な概念や原理・法則について理解を深め、観察や実験などを通して、理科の見方・考え方を働かせ、日常の現象を科学的に探究するために必要な資質や能力を身に付ける。また、日常生活や社会との関連（繋がり）を踏まえ、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察や実験などに関する基本的な技能を身に付ける。観察、実験などを通して、科学的に探究する力を養う。物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養うことができる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
		各物理現象に関する法則や原理、及び公式等を正しく理解している。また、必要に応じて公式等を導出することができる。		様々なグラフや数式から、各物理現象に繋げることが出来る。（物理現象のイメージ化ができる。）		様々な身近な現象に対して、物理学的視点を持って考察し理解を深めようとしている。（知識を身近な物理現象につなげる。関連付けようとしているかどうかという視点。）
評価の方法		・ 考查問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 授業での発問に対する答え		・ 考查問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 授業の中での発言や発表		・ 考查問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 主体的に実験やグループ活動に参加できたか

年間計画

			◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	I 力と運動	1 物体の運動 2 力と運動の法則	◎	◎	○	・ 「速さ」と「速度」の違いをスカラー量とベクトル量で理解している。 ・ 等加速度直線運動をベースとすることで、各種運動である①自由落下、②鉛直投げ下し、③鉛直投げ上げ、④水平投射、⑤斜方投射 等の公式が導出できる。 ・ 力と加速度の関係を表したa-Fグラフや、質量と加速度の関係を表したa-mグラフから、運動方程式へと繋げることができる。 ・ 2物体運動方程式や3物体運動方程式のように物体数が複数になった際、それらの物体を1物体とみなした式も立てることができ、表現することができる。
6-8	12	II エネルギー	1 仕事と力学的エネルギー 2 熱とエネルギー	○	◎	○	・ 「仕事の原理」について、具体例を示しながら、説明することができる。 ・ 「力学的エネルギー保存の法則」を、様々な問題設定でも用いることができる。 ・ 熱力学の第一法則や熱力学の第二法則を理解した上で、吸熱か放熱か、または圧縮か膨張かを判断し、内部エネルギーの変化量について説明できる。 ・ 熱平衡（状態）についての理解を深め、熱量保存則の式を立式できる。 ・ 身近なガソリン機関等を通して、熱機関と熱効率についての理解を深める。
前期期末考查							
9-11	22	III 波動	1 波の性質 2 音波	○	◎	◎	・ 波の表し方、波の重ねあわせの原理、定常波、波の反射・回折等についての理解を深める。 ・ 身近な弦楽器を例に、弦の固有振動について作図を含めた理解を深める。また、身近な管楽器を例に、気柱の固有振動について作図を含めた理解を深める。 ・ 身近な現象である「ドップラー効果」について、作図や自分の言葉を用いて説明することができる。 ・ 音速が温度依存であることを理解する。また、音波は縦波であり、疎密波であり、媒質が空気であることを理解し、その上で、真空条件下では、音が伝わらないことを理解する。
後期中間考查							
12-3	20	IV 電気	1 電荷と電流 2 電流と磁場 3 エネルギーとその利用	◎	○	○	・ 電荷、電流と電気抵抗、物質の抵抗率、直流回路、電力について正しく理解している。 ・ 物質の抵抗率について、導体の長さ及び断面積を含めて説明することができる。 ・ 電力等、日常生活と関わりが深い内容について興味関心を持ち、自ら調べたり、各種発電方法についての見解を深めるとともに、環境問題についても考えることができる。
後期期末考查							
合計	70						

1 年次		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
理科	生物基礎	2	学級単位		関崎 淳二・畠山 薫	
教科書		改訂版高等学校生物基礎（数研出版）				
補助教材		スタディアップノート生物基礎（数研出版）				
目標	科目	1 生命現象の持つ多様性を踏まえつつ、それらに共通する生物学の概念や原理・法則を理解する。 2 遺伝子・健康・環境など日常生活や社会に関わるテーマを通して、生命現象への興味・関心を高める。 3 生命現象の中から問題や課題を見出し、観察、実験などを通して探究する姿勢を身につける。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・生命現象について、概念や原理を理解し身につけることができたか。 ・観察・実験の正しい操作方法が身についたか。		・生命現象について、資料やデータから内容を読み取り、まとめることができたか。 ・自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができたか。		・生命現象を日常生活と結びつけ、関心を持って学習に臨めたか。 ・日常生活や社会的な課題を学習内容を生かし解決に向けて取り組めたか。	
評価の方法	・定期考査 ・教科書各章末まとめ、問題集の取り組み		・教科書を読み込み学習内容をまとめ、生徒間で評価		・教科書の問いに対する答え、発展的気づきを考察として記述	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-6	14	第1章 生物の特徴	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 呼吸と光合成	◎ ○ ◎	○ ◎ ◎	◎ ○ ○	・細胞の構造と機能について理解を深めることができたか。 ・代謝について、物質・エネルギーの出入りから説明できるか。 ・呼吸や光合成の反応でATPや酵素が関わることを理解できたか。
前期期末考査							
7-8	10	第2章 遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現	◎ ○ ○	◎ ○ ◎	○ ◎ ◎	・物質としてのDNA、ゲノムの概念を理解できたか。 ・細胞分裂時の染色体の変化を説明できたか。 ・遺伝情報をもとにタンパク質が合成される過程が説明できるか。
8-11	24	第3章 ヒトの体内環境の維持	体内での情報伝達と調節 体内環境の維持のしくみ 免疫のはたらき	○ ◎ ◎	◎ ◎ ○	◎ ○ ◎	・体内の情報伝達についてその仕組みを理解できたか。 ・血糖濃度などの体内環境が、一定の状態に維持されることの意味や仕組みについて説明できるか。 ・免疫の機能を理解するとともに、感染症やアレルギーなど身近な問題について考えることができるか。
後期中間考査							
12-3	22	第4章 生物の多様性と生態系	植生と遷移 植生の分布とバイオーム 生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	◎ ○ ○ ○	◎ ◎ ◎ ◎	○ ◎ ◎ ◎	・遷移の起こる理由と過程を考察することができたか。 ・各バイオームの動植物について関心を持つとともに、それぞれの特色と関連づけることができたか。 ・種多様性がなぜ重要であるかを理解し、それを脅かす現問題を理解できているか。 ・人間による経済活動が生態系に及ぼす影響を理解し、その対策について考察することができるか。
後期期末考査							
合計	70						

1 年次		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
保健体育	体育	2	2 クラス 3 展開		稲村、北辻、水谷	
教科書		大修館 現代高等保健体育				
補助教材						
目 標	科 目	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
	資 質・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。		・生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を思考・判断できる。 ・自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続する計画を工夫し、他者に伝えることができる。		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組む態度を養うことができる。	
評価の方法	・授業への取り組み（観察） ・ルール、審判法の理解 ・練習方法の計画性 ・基本的な個人技能 ・周囲への配慮		・授業への取り組み（観察） ・自己の課題設定 ・練習方法の工夫		・授業への取り組み（観察） ・ルールの遵守 ・安全への配慮	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達目標
4-5	16	体づくり運動 陸上競技 現代的なリズムのダンス	体ほぐし運動 体力を高める運動 スポーツテスト 競走、跳躍、投擲 仲間と動きを合わせリズムに乗って踊るダンス	○ ◎ ◎	○ ○ ○	◎ ◎ ◎	・体力の構成要素とそれらが健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて理解する。 ・段階的かつ継続的に練習をすすめる、自己目標を設定し、体力や記録の向上を目指す。 ・リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って体幹部（重心部）を中心に全身で自由に弾んで踊る力を身につける。
6-9	24	選択Ⅰ	バドミントン サッカー ソフトボール	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	◎ ◎ ◎	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身につける。
10-11	18	選択Ⅱ	バレーボール バスケットボール 卓球	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	◎ ◎ ◎	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身につける。
12-3	12	選択Ⅱ 体育理論	バレーボール バスケットボール 卓球 スポーツの発祥と発展	◎ ◎ ◎ ○	○ ○ ○ ○	◎ ◎ ◎ ◎	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身につける。 ・スポーツの歴史的発展と変容を理解できるようにする。
合計	70						

1 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
保健体育		保健	1	学級単位	水谷	
教科書		大修館 現代高等保健体育				
補助教材						
目標	科目	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康、生涯を通じる健康及び社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。		個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えることにより、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。		個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、主体的に学習に取り組もうとする。	
評価の方法	・小テスト ・単元テスト		・ノート・課題の提出状況 ・授業観察 ・発表内容		・発言、発表態度 ・授業観察 ・協力体制	

年間計画

月		時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	8	1	現代社会と健康	1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康	◎	◎	○	わが国の現在の健康水準や健康問題の変化について学び、今日の健康課題について理解する。健康の成立要因をふまえた上で、自分なりの健康のとらえ方について考える。
6-9	10	1	現代社会と健康	7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康 9 喫煙と健康 1 0 飲酒と健康 1 1 薬物乱用と健康 1 2 精神疾患の特徴	◎	◎	○	代表的な生活習慣病とその症状などについて学ぶとともに、それらが食事、運動、休養・睡眠、喫煙、飲酒といった生活習慣によって大きく影響されることを理解し、生涯にわたって適切なライフスタイルを選択・実践できるようにする。
10-11	10	1	現代社会と健康	1 3 精神疾患の予防 1 4 精神疾患からの回復 1 5 現代の感染症 1 6 感染症の予防 1 7 性感染症・エイズとその予防 1 8 健康に関する意思決定・行動選択 1 9 健康に関する環境づくり	◎	◎	○	心と体には密接な関連があり、心の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることを学ぶ。
12-3	7	2	安全な社会生活	1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急処置 6 心肺蘇生法	◎	◎	○	わが国の事故の現状をふまえ、引き起こす要因について理解する。また、事故の防止には行動や規範を守る意識、安全な社会づくりが必要不可欠であり、交通事故には責任や補償問題が生じることも理解させ、自らが事故を起こさないようにする心構えをもてるようにする。
合計	35							

1 年次		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
芸術	音楽Ⅰ	2	選択授業		田中 俊幸	
教科書		音楽Ⅰ Tutti+				
補助教材		基礎から学ぶ高校音楽 Music Note				
目標	科目	・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 ・音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。 ・音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や譜に気を感じながら、どのように表現するかについて理解する。		イメージを持った、創造的工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、それを表現している。		音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に表現しようと工夫して取り組もうとしている。	
評価の方法	・演奏（理解） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験		・演奏（技術） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験 ・鑑賞		・演奏（態度） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験 ・鑑賞	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・理論 ・創作 ・歌唱	・楽典 ・聴音 ・ボディーパーカッション ・発声練習 ・校歌 ・合唱 ・実技試験（校歌）	◎	○	◎	・基本的な楽譜の仕組みについて理解する。 ・簡単なリズムを用いて合奏を行う。 ・発声の基本技能を身に付け、積極的に歌唱活動を行う。 ・校歌の音楽の諸要素を知覚し、創造的に表現する。 ・合唱曲を通して、歌唱でイメージを表現できるようになる。
6-8	12	・理論 ・歌唱 ・器楽 ・鑑賞	・聴音 ・トーンチャイム ・日本の音楽 ・ギター（基礎） ・リコーダー ・鑑賞（ミュージカル） ・実技試験（リコーダー）	◎	◎	○	・楽譜についての理解を深め、ソルフエージュ能力を身につける。 ・複雑なリズムを用いて合奏を行う。 ・親しみやすい日本の歌に取り組み、協同的に取り組む。 ・アルトリコーダーの基本技能を身に付け、積極的に音楽活動を行う。 ・身近な日本音楽に触れ、積極的に表現活動を行う。 ・総合芸術において物語と音楽がどのように関わるか理解する。
前期期末考査							
9-11	22	・理論 ・歌唱 ・器楽 ・鑑賞	・視唱（コールユープンゲン） ・世界の音楽 ・リコーダー（アンサンブル） ・ギター（弾き語り） ・鑑賞（ギター） ・実技試験（ギター）	◎	○	○	・読譜能力や、高度なソルフエージュ能力を身につける。 ・自己の内容イメージを表現するための具体的な技能を身につけ、それを生かして創造的に表現する。 ・ギターの基本技能を身に付け、積極的に音楽活動を行う。
後期中間考査							
12-3	20	・理論 ・器楽 ・創作	・理論まとめ ・ピアノ ・鑑賞（ピアノ） ・和楽器 ・発表	○	○	◎	・鍵盤の仕組みについて理解し、基本的な演奏能力を身につける。 ・和楽器の持つ独特な音色を研究し、積極的に表現活動を行う。 ・簡単な創作をグループで行い、創作や発表の基本を学ぶ。 ・演奏や鑑賞について、主体的に取り組む態度を育成する。
後期期末考査							
合計	70						

必修						
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
	書道Ⅰ	2	選択授業		天満谷 貴之	
教科書	教育出版 書道Ⅰ					
補助教材	なし					
目標	科目	(１) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (２) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (３) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け表している。		・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。		・書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	
評価の方法	・作品 ・自己評価シート ・ワークシート		・作品 ・自己評価シート ・ワークシート		・作品 ・グループワーク ・自己評価シート ・ワークシート	

年間計画

年間計画		◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	16	オリエンテーション 文房四宝 漢字の書 1 篆刻	書写と書道について 墨・紙・硯・筆を調べる 文字の変遷と楷書 姓名印を刻そう	◎ ◎	◎	○ ○
6-8	12	漢字の書 2	楷書と行書を比較 日本の書を学ぶ	◎	◎	○ ○
前期期末考査						
9-11	22	仮名の書	書の伝統文化を学ぶ (仮名の歴史について) 仮名の線を引く	○ ◎	◎	◎
後期中間考査						
12-3	20	漢字仮名交じりの書	言葉の持つメッセージ性とは何か 漢字と仮名の調和とは 詩人の言葉を書いてみる 生活の中に生きる書	◎	○ ◎	○ ◎
後期期末考査						
合計	70					

1 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
芸術		美術 I	2	選択授業	安田 祐子	
教科書		高校美術 I （日本文教出版）				
補助教材		なし				
目標	科目	美術の活動を通じて、美術を愛好する心情・感性を高める。また目的達成のためのプロセス、必要な段取りを考え必要な技術を身につける。生活を豊かにする美術の働きや美術文化を理解する能力を育成する。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	表現の方法・違いを理解し、自身の好む新たな表現またその過程を考え、再現するために必要な技能を習得する。基本的な画材や道具の使い方を習得する。		自身が求める創造的な表現がなされているかを考察する。必要な技術を身に付けたうえで、他の技法や素材について検討し、制作過程の正誤を再考する。		幅広い表現方法と鑑賞活動に関心を持ち、主体的に生活や社会を心豊かにする美術の働き、美術文化などに理解を深めようとしている。新たな表現方法に挑戦している。	
評価の方法	・練習課題 ・作品 ・学習活動への参加状況や態度		・エスキース、アイディアスケッチ等 ・作品 ・学習活動への参加状況や態度		・エスキース、アイディアスケッチ等 ・作品 ・ 鑑賞レポート ・学習活動への参加状況や態度	

年間計画

月		時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5		16	・導入 ・練習 ・平面構成	・オリエンテーション ・絵の具の練習シート ・色彩と構成	○	◎	◎	○小中学校での図工美術を振り返り、美術 I について制作のイメージをもち、美術の学びの意味について考える。 ○色彩について基本的な知識を整理、理解する。 ○画材、用具の特徴を確認し理解する。 ○与えられた要素を効果的に用い、多くの構成パターンを検討する。
6-8		12	・平面構成 ・デコイ彫刻	・構成 ・着彩 ・鑑賞 ・立体と空間の把握	◎	○	◎	○色同士の関係を理解し、完成作品の印象をイメージする。 ○画材の特徴を生かし、美しく着色できる技術を身につける。 ○用具の正しい用い方を身につける。 ○立体作品の素材について学ぶ。
(前期期末考査)								
9-11		22	・デコイ彫刻 ・人物クロッキー ・砂絵	・立体と空間の把握 ・鑑賞（名画から学ぶ） ・模写	○	◎	◎	○空間を正確に理解し、かたちに表す。 ○平面絵画作品の鑑賞から色彩やかたちが与える効果について学ぶ。 ○原画を正確に模写する。 ○用具を正しく用い、色の分かれ目で切り取れるようにする。
(後期中間考査)								
12-3		20	・砂絵	・色砂による着彩	○	○	◎	○10色の色砂を用いた混色について理解し、対象の絵画作品を正確に表現できるようにする。 ○原画をよく観察することで、細部まで追い完成度を高める。
(後期期末考査)								

合計 70

1 年次		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	4	2 クラス 3 展開		柴田ゆうか・西川佳希・渡邊大地	
教科書		MY WAY English CommunicationⅠ				
補助教材		必携英単語LEAP Basic、英文法基礎10題ドリル				
目 標	科 目	○基礎・自己表現の確立「身近な出来事から英語に親しみ、やりとりの基礎を作る」 (読む) 電子メールや簡単な物語、説明書などを読み、必要な情報を捉えることができる。 (聞く) 教師とALTの対話や、公共の場(駅や店など)の放送を聞いて、状況や概要を捉えることができる。 (話す/やりとり) 日常の出来事について質疑応答を行い、聞き手として話題を広げる会話を継続させることができる。 (話す/発表) 聞き取ったり調べたりした内容について、簡潔な語彙で具体例を用いた1～2分の発表を行うことができる。 (書く) 授業で扱った話題や事実について、簡潔な語彙で理由を明確にしなが50～60語のまとまった内容を書くことができる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	[知識] 文章を読み取るために必要となる文法に関する事項や表現の意味や働きを理解している。 [技能] [L]本文を聞き取る技能を身に付けている。 [R]文法に留意して、内容を読み取る技能を身に付けている。 [Sや]論理性に注意して円滑に意見を交換する技能を身に付けている。 [S発]グループで話し合った内容を、論理性に注意して報告する技能を身に付けている。 [W]論理性に注意して既習文法などを用いて簡潔に書いて伝える技能を身に付けている。		[L]本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えている。 [R]本文を読み取り、概要や要点を把握している。 [Sや]基本的な語句や文を用いて、考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えている。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して簡潔に書いて伝えている。		[L]本文の概要や要点、必要な情報を、主体的、自律的に聞き取って捉えようとしている。 [R]本文を主体的、自律的に読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 [Sや]基本的な語句や文を用いて、主体的、自律的に考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えようとしたりしている。 [S発]グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、主体的、自律的に情報や考えを発表して伝えようとしている。 [W]本文を読んで得られた情報などを参考にしながら、主体的、自律的に簡潔に書いて伝えようとしている。	
	評価の方法		・小テスト(単語・文法テスト) ・定期考査 ・パフォーマンステスト		・ポートフォリオ(振り返りシート、学習記録) ・パフォーマンステスト ・各種課題の取り組み内容	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	32	Lesson 1 ～Lesson 10	【Learner-Stage】 教科書をベースに、語彙・文法・背景知識を蓄える。 ①Vocaburality Check ②Listening & Q&A ③Reading ④Review ⑤Exercise ⑥まとめ(writingなど)	◎	○	◎	[L]ワークシート等を活用し本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。 [R]文法に留意し、本文を読み取り概要や要点を把握することができる。 [Sや]基本的な語句や文法を用いて、与えられたフォーマットを参考に、考えを話して伝えたり、相づちを打ちながら相手とのやり取りをすることができる。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えることができる。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して簡単な理由を添えて、簡潔に書いて伝えることができる。
6-8	24		・Be a good interviewer ・with ALT ・探究活動とリンクした資料作成、プレゼンテーション	◎	○	◎	[L]ワークシート等を活用し本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。 [R]文法に留意し、本文を読み取り、概要や要点を把握し、推論することができる。 [Sや]基本的な語句や文法を用いて、考えを話して伝えたり、相づちを打ちながら相手とのやり取りをすることができる。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えることができる。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて理由や根拠とともに書いて伝えることができる。
前期期末考査							
9-11	44	Lesson 1 ～Lesson 5	【User-stage】 基本的な表現を使いながら、やりとりを通じて他者の意見と比較し、自分の考えを深める。 ①本文Listening & Summery ②仲間とのやり取り ③Writing	○	◎	◎	[L]ワークシート等を活用し本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。 [R]文法に留意し、本文を読み取り、概要や要点を把握し、推論することができる。 [Sや]基本的な語句や文法を用いて、考えを話して伝えたり、考えを話して伝えたり、相づちを打ったり相手をほめる表現をつかたりしてやり取りをすることができる。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えることができる。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して話題を広げて理由や根拠とともに書いて伝えることができる。
考査を実施せず			・Trio discussion ・with ALT ・個人探究や教科書の関連内容とリンクしたプレゼンテーション	○	◎	◎	
12-3	40	Lesson 6 ～Lesson 10					[L]ワークシート等を活用し本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。 [R]文法に留意し本文を読み取り、概要や要点を把握し、推論することができる。 [Sや]基本的な語句や文法を用いて、考えを話して伝えたり、話題を発展させながらやり取りを続けることができる。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えることができる。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して自分の意見を理由を複数添えて書いて伝えることができる。
後期期末考査							
合計	140						

1 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
情報		情報Ⅰ	2	学級単位		山下 賢一
教科書		実教出版 情Ⅰ007-904 図説情報Ⅰ 新訂版				
補助教材		図説情報Ⅰ 新訂版 学習ノート ・ ライフイズテックレッスン「情報Ⅰ」				
目標	科目	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 （２）様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 （３）情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。		事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。		情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	
評価の方法	定期考査・小テスト・理解度チェック		レポート・プレゼンテーション・提出作品・課題		自己評価・振り返り・学習ノート・（課題）	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	序章 情報社会と私たち 1章 情報社会と問題解決 2章 コミュニケーションと情報デザイン	○情報社会の現状について理解する。 ○情報の特性について理解する。 ○情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。 ○知的財産権について理解する。 ○他人の著作物を適切に利用したり公開したりする方法を理解する。 ○個人情報とプライバシーについて理解しそれらを保護する方法を身に付ける。 ○社会の中で活用されている情報技術について理解する。 ○様々な情報技術について理解し課題解決の方法を考える。 ○問題解決学習全般の流れを理解する。 ○データの活用方法を知る。 ○メディアには権限があることを理解し、その発達について知る。 ○メディアの特性を理解し目的に応じたものを選択できる。	◎	○	○	・情報と情報技術を活用した問題の発見・解決の方法に着目し、情報社会の問題を発見・解決する活動を通して、以下の事項を身に付ける。 （知識・技能） ・情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題発見・解決する方法を身に付ける。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解する。 ・情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解する。 （思考力・判断力・表現力等） ・目的や状況に応じて 情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題発見・解決する方法について考える。 ・情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考察する。 （主体的に学習に取り組む態度） ・情報と情報社会の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について寄与しようとする。
6-8	12	2章 コミュニケーションと情報デザイン 3章 情報とコンピュータ	○コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。 ○インターネットを活用したコミュニケーションの特徴を理解する。 ○社会で利用されている情報デザインを理解する。 ○情報を正確に分かりやすく伝える方法を理解する。 ○報告書やレポート論文を作成するための手順を理解する。 ○プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。 ○コンピュータの構成と動作の仕組みを理解する。 ○ソフトウェアの種類とインターフェースを理解する。 ○アナログとデジタルの違いについて理解する。 ○2進数と情報量について理解する。 ○コンピュータ演算の仕組みを理解する。 ○情報のデータ量を圧縮する方法を理解する。	◎	○	○	・メディアとコミュニケーション手段及び情報デザインに着目し、目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通して、以下の事項を身に付ける。 （知識・技能） ・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解する。 ・情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解する。 ・効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方方法を理解し表現する技能を身に付ける。 （思考力・判断力・表現力等） ・メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択する。 ・コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考える。 ・効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方方法に基づいて表現し、評価し改善する。 （主体的に学習に取り組む態度） ・情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとし、情報社会に主体的に参画しようとする。
前期期末考査							
9-11	22	4章 アルゴリズムとプログラミング 5章 モデル化とデータの活用	○アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 ○プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。 ○基礎的なプログラムを作成する。 ○変数を使用したプログラムを作成する。 ○日常生活に関連した事柄からプログラムを作成する。 ○プログラムのミス（バグ）を読み取り修正する。 ○モデル化とシミュレーションについて理解する。	○	◎	○	・コンピュータで情報が処理される仕組みに着目し、プログラミングやシミュレーションによって問題発見・解決する活動を通して、以下の事項を身に付ける。 （知識・技能） ・コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算に関する限界について理解する。 ・アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し技能を身に付ける。 ・社会や自然などにおける事象をモデル化する方法、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解する。 （思考力・判断力・表現力等） ・コンピュータで扱われる情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考察する。 ・目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用するとともに、その過程を評価し改善する。 ・目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行うとともに、その結果を踏まえて問題の適切な解決法を考える。 （主体的に学習に取り組む姿勢） ・問題解決にコンピュータを積極的に活用し、自ら結果を振り返って改善しようとする。 ・生活の中で使われているプログラムを見出して改善しようとする事などを通して情報社会に主体的に参画しようとする。
考査を実施せず							
12-3	20	5章 モデル化とデータの活用 6章 ネットワークと情報システム	○モデル化とシミュレーションについて理解する。 ○実際のものなどを一定の縮尺で小型化したモデルを使い、配置などのシミュレーションを行う。 ○実際に起こる可能性がある事柄を数値や表式に置き換え、変化などをシミュレーションする。 ○情報通信ネットワークの構成を理解する。 ○ネットワークを効率的に利用する為の取り決めを理解する。 ○Webページとメールの仕組みについて理解する。 ○脅威に対する様々な安全対策を理解する。 ○情報セキュリティを確保する方法と技術を理解する。	○	◎	○	・情報通信ネットワークを介して流通するデータに着目し、情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを活用し、問題発見・解決する活動を通して以下の事項を身に付ける。 （知識・技能） ・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解する。 ・データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解する。 ・データを表現、蓄積するための表し方と、データの収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付ける。 （思考力・判断力・表現力等） ・目的や状況に応じて 情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法について考える。 ・情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考える。 ・データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善する。 （主体的に学習に取り組む態度） ・情報セキュリティなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。
後期期末考査							
合計	70						